

# 御書統合システム ファーストガイド

御書統合システムを使うための  
最初のマニュアル  
「検索」と「絞込」から始まる  
広大な遺文資料検索システムの  
使い方がわかります

御書統合システム制作  
興風談所ほか有志一同

<https://goshotogo.com/>  
[info@goshotogo.com](mailto:info@goshotogo.com)

## 目次

ダウンロードとインストール	1
ダウンロード	1
日本語データベースシステム「桐」	1
インストールとアンインストール	2
インストール	2
アンインストール	2
まずは使ってみよう！	3
検索と絞込	3
検索	3
絞込	4
1. 各画面の構成	6
A. 起動とメインメニュー	6
起動	6
メインメニュー	6
終了	7
B. 基本の操作	8
使い方が分からないときには	10
栞機能	11
C. 検索と置換をつかいこなす	12
「検索・絞り込み」を使いこなす 2 つの方法	12
下記の記号を付ければ特殊な検索もできます	12
検索のページ送り	13
「検索」「絞込」のその他の機能	13
御書統合システムに慣れるには	13
2. 各フォームの構成と使い方	14
A. 「御書目次」フォーム	14
御書目次・項目「C」の説明	15
B. 御書基本文フォーム	16
◎ 5 種類 (5 項目) の御書本文	16
写本備考に使われている略符	18
C. 御書通読用フォーム	19
便利な使い方	20
D. 解題集成フォーム画面	21

『日蓮遺文解題集成』の収録について	21
図版の参照	22
E. 法華経本文フォーム画面	23
2つのフォーム画面	23
御書本文・御書通読とのリンク	25
書き出し	25
F. 「法華経通読」フォーム画面	26
G. 「注法華経」フォーム画面	27
注経通読画面	28
H. 「遺文頁検索」フォーム画面	29
遺文選択・検索対象の10遺文集	29
I. 「本尊資料」フォーム画面	31
年表・西暦換算フォーム画面とのリンク	31
J. 「辞書・辞典」フォーム画面	32
3つの検索方法	32
御書本文とのリンク	33
K. 「年表」フォーム画面	33
L. 「西暦換算」フォーム画面	35
2種類のフォーム画面	35
旧暦年月日の入力上の留意事項	36
ユリウス暦とグレゴリオ暦の違い	37
M. 「用語調査」フォーム画面	38
調査結果に関して	39
N. 「システム説明」フォーム画面	40
O. 「メンテナンス」フォーム画面	41
P. 「他データ検索」フォーム画面	42
3. 書出	43
御書本文の書出	43
一つの御書全体を書き出すには 「御書本文」フォームの場合	43
一つの御書全体を書き出すには 「御書通読」フォームの場合	46
どんなデータが書き出せるか?	47
特殊な書出 現代語訳の書出	47
「御書本文」フォームからの現代語訳の書出	47

# ダウンロードとインストール

## ダウンロード

御書統合システムのダウンロードは、御書統合システムのホームページから行ってください。

御書統合システムホームページ <https://goshotogo.com>



### ※御書統合システムのダウンロードページ

ホームページ上にダウンロードの諸注意などが記載されています。よく読んでからダウンロードをしてください。

## 日本語データベースシステム「桐」

御書統合システムおよび御書システムは無料のソフトウェアですが、本システムを使うためには、日本語データベースシステム「桐」が必要です。初めての方は、「30日間無料トライアル」を試用して御書統合システムを使ってみてください。現在（2025年4月28日現在）、「桐」では「買い切り版」と、月払いまたは年払いの「桐スマートライセンス」（サブスクリプション版）も提供されています。ご検討ください。

## インストールとアンインストール

### インストール

1. 当ホームページから、御書統合システムをダウンロードしてください。ダウンロードできた ZIP ファイルをダブルクリックして解凍してください。
2. 解凍すると、goshotogsystem2025.exe というファイルがありますので、こちらをダブルクリックしてください。
3. 下記のような画面が表示されます。「解凍」ボタンを押して解凍してください。



解凍先フォルダは初期設定では [C:\K3\Data]（任意指定もできます）となっています。よく分からない場合は、そのまま解凍していただくので結構です。

4. 以上でインストール作業は終了です。デスクトップまたはスタートメニューに登録されたショートカットをダブルクリックして、御書統合システムを起動してください。

### アンインストール

1. 御書統合システムのアンインストール方法は、「C:\k3」のフォルダごと削除していただければアンインストールできます。（御書統合システムはレジストリを書き換えるタイプのソフトウェアではありませんので、「プログラムの追加と削除」からのアンインストールは必要ありません。）
2. 桐のアンインストール方法は、「桐」のホームページをご覧ください。

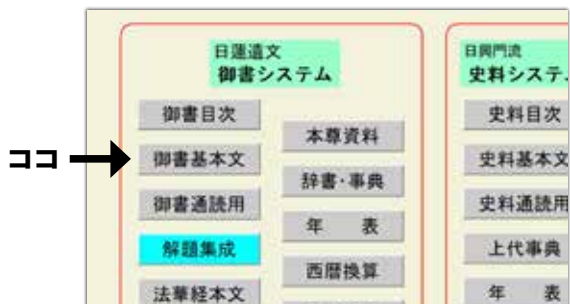
## まずは使ってみよう!

### 検索と絞込

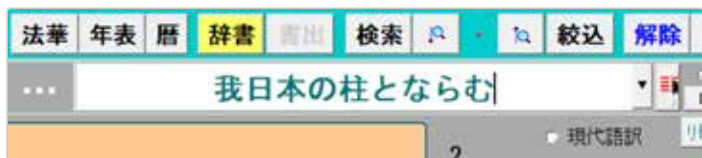
#### 検索

まずは、有名な開目抄の御文を検索してみましょう。

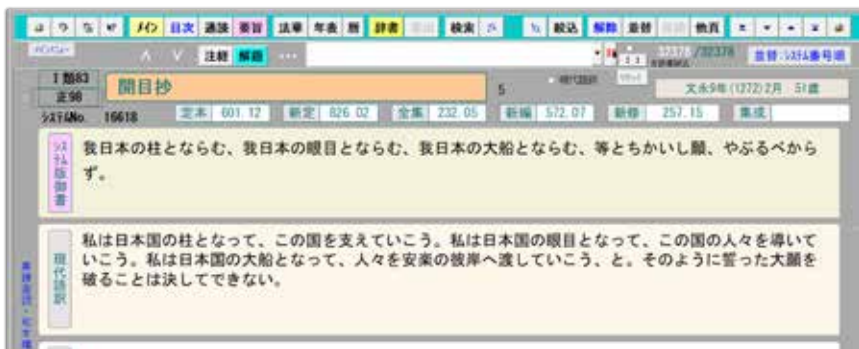
御書統合システムを起動(p6)したら、ホーム画面から「御書基本文」をクリック。



中央のテキスト入力枠に「我日本の柱とならむ」と入力し、上部の「検索」ボタンをクリックします。



「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」の一節が表示されました。



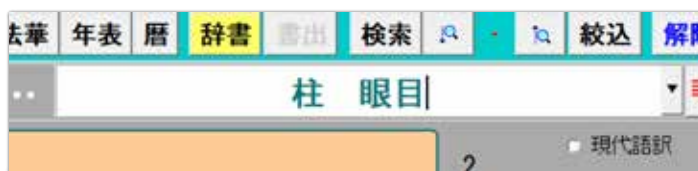
## 絞込

では、「われ日本の柱とならむ」と検索してみましょう。すると「\*\* 該当の本文はありません \*\*」と表示されます。これは本システムが各遺文を検索する際に、検索結果の厳密性を確保しているためで、いわゆる「あいまい検索」機能は持たせていないためです。

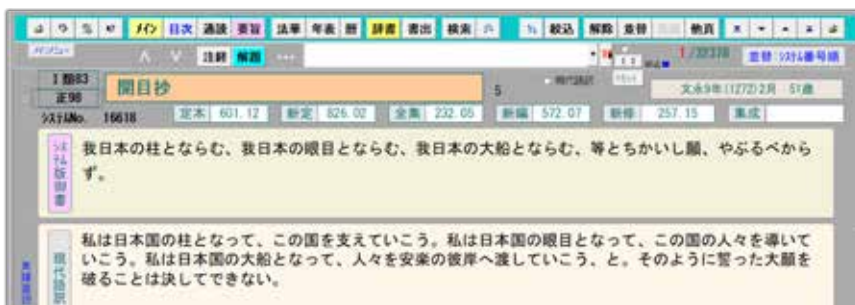
このようにうろ覚えの御文や、各遺文に共通する御文を探したい場合などは、「絞込」機能を使用します。

上記の開目抄の一節の内、「柱」と「眼目」というキーワードを覚えていたとします。

中央のテキスト入力枠に「柱」と入力し、スペースを入力後、「眼目」と入力してください。次に、上部の「絞込」ボタンをクリックします。



「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」の一節が表示されました。

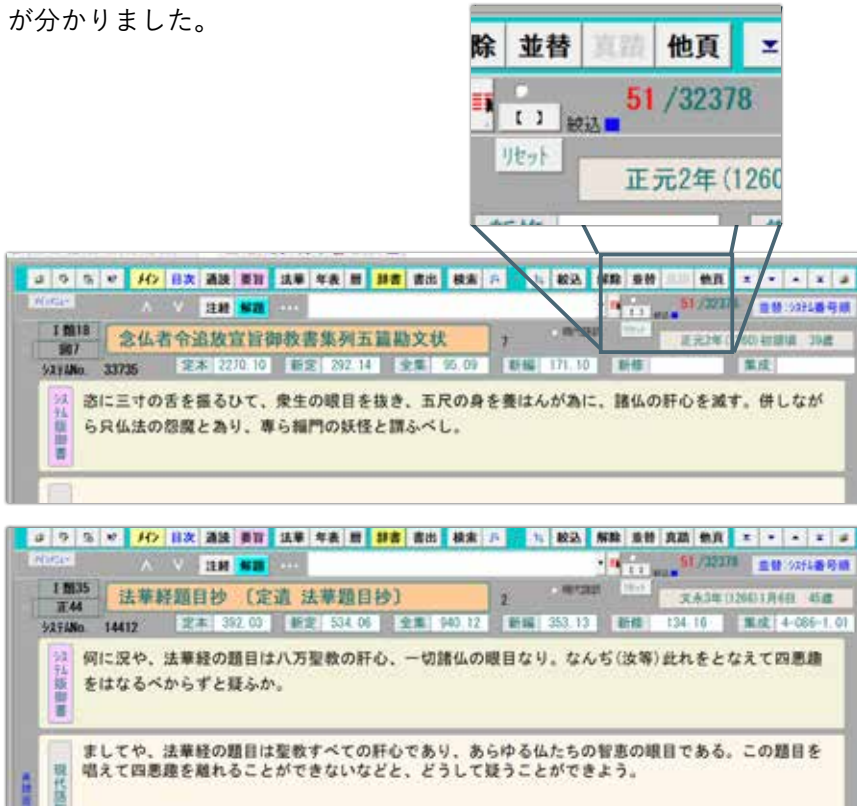


では、その他の遺文に「眼目」というキーワードはどのくらいの数使用されているかを調べてみましょう。

上部の「解除」ボタンをクリックした後、テキスト入力枠に「眼目」と入力し、「絞込」ボタンをクリックします。



絞り込みの結果、日蓮遺文中、「51」箇所に「眼目」が使用されていることが分かりました。



「念仏者令追放宣旨御教書集列五篇勘文状」や「法華経題目抄」などに「眼目」が含まれていることが分かりました。

この「検索」と「絞込」が本システムの中心的な機能となります。いろいろな言葉を検索や絞り込みに利用し、研鑽に活用してみてください。

# 1.各画面の構成

## A.起動とメインメニュー

### 起動

御書統合システムをインストールすると作成されるデスクトップ上のアイコンをダブルクリックすると、起動します。



### 御書統合システムのアイコン↑

または、任意の場所に保存した「御書統合システム .cmx」をダブルクリックすると起動します。

もしくは、「桐 10s」を起動し、「御書統合システム .cmx」を選択して起動してください。

### メインメニュー

御書統合システムを起動して最初に表示される画面です。

- ①御書システム
- ②日興門流史料システム
- ③日蓮門下通用文献システム
- ④天台宗関係典籍システム

※各システムの使い方は、ほぼ共通のため、本書では「①御書システム」の使い方を中心に説明をします。

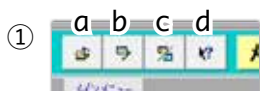
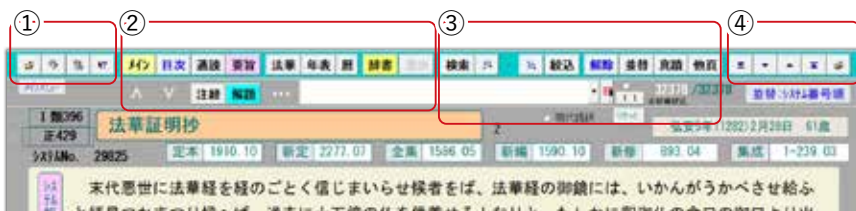
- ⑤「御書目次」フォーム画面へ移動（14ページ）
- ⑥「御書基本文」フォーム画面へ移動（16ページ）
- ⑦「御書通読用」フォーム画面へ移動（19ページ）
- ⑧「解題集成」フォーム画面へ移動（21ページ）
- ⑨「法華経本文」フォーム画面へ移動（23ページ）
- ⑩「法華経通読」フォーム画面へ移動（26ページ）
- ⑪「注法華経」フォーム画面へ移動（27ページ）
- ⑫「遺文頁検索」フォーム画面へ移動（29ページ）
- ⑬「本尊資料」フォーム画面へ移動（31ページ）
- ⑭「辞書・辞典」フォーム画面へ移動（32ページ）
- ⑮「年表」フォーム画面へ移動（33ページ）
- ⑯「西暦換算」フォーム画面へ移動（35ページ）
- ⑰「用語調査」フォーム画面へ移動（38ページ）
- ⑱「システム説明」フォーム画面へ移動（40ページ）
- ⑲「メンテナンス」フォーム画面へ移動（41ページ）
- ⑳「他データ検索」フォーム画面へ移動（42ページ）

## **終了**

㉑「終了」…こちらのボタンを押すと御書統合システムを終了できます。この方法で終了した場合、システムは終了時の位置を記憶します。または、画面右上の「×」ボタンでも終了できますが、この場合は終了時の位置には戻りません。

## B.基本の操作

ここでは御書統合システムの基本操作を、「御書基本文」フォーム画面から見ていきます。御書統合システムでは上部のボタンで基本的な操作を行うことができます。



- a. 「閉帳」ボタン…1つ前のフォーム画面（一つ前の作業）に戻ります。
- b. 「表切替」ボタン…表形式での編集画面に切り替えます。
- c. 「フォーム切替」ボタン…別のフォーム画面に切り替えます。
- d. 「ヘルプ」ボタン…ヘルプ（システム説明）画面に切り替えます。



- a. 「メイン」ボタン…メインメニュー画面に切り替えます。
- b. 「目次」ボタン…該当御書の「御書目次」画面に切り替えます。
- c. 「通読」ボタン…該当御書の「御書通読」画面に切り替えます。
- d. 「要旨」ボタン…該当御書の「要旨画面」に切り替えます。
- e. 「法華」ボタン…該当御書に関連する「法華経」画面に切り替えます。
- f. 「年表」ボタン…該当御書に関連する「年表」画面に切り替えます。
- g. 「暦」ボタン…該当御書の「西暦換算」画面に切り替えます。
- h. 「辞書」ボタン…辞書画面に切り替えます。
- i. 「書出」ボタン…該当御書などのデータをテキストファイルとして書き出します。ただし印刷の機能はありません。書き出す御書本文が絞

り込まれた状態のとき、「書出」ボタンが黒く表示されて実行可能となり、書き出し実行画面に切り替えます。

j. 「注経」ボタン…該当御書に関連する「注法華経」画面に切り替えます。

k. 「解題」ボタン…該当御書の「解題集成」画面に切り替えます。

l. 「テキスト入力枠」…調べたい一節や単語を入力するための枠。



a. 「検索」ボタン…キーワードの検索を開始します。

b. 「次検索」ボタン…同じキーワードの次の位置を検索します。

c. 「栞窓」…栞機能の状態を示します。

d. 「前検索」ボタン…同じキーワードの前の位置を検索します。

e. 「絞込」ボタン…キーワードの絞り込みを開始します。

f. 「解除」ボタン…絞り込み状態を解除します。

状態は3色で示されます。

黒字…絞り込み状態を示します。クリックすると、絞り込み状態が一段階解除されます。

青字…栞の「レ」点が付けられているときを示す。2つの虫眼鏡ボタンの間をクリックすると赤い表示に変わる。次で「解除」ボタンをクリックすると、複数の「レ」を一度に解除できる。

伏字…絞り込みも栞機能も動作していないとき。

g. 「並替」ボタン…御書関係のデータ行を並べ替えます。クリックするとメニューが表示されるので、その中から選択してください。並べ替えの状態が、上部ボタン列の右側の下辺りに表示されます。

h. 「真蹟」ボタン…現在表示の御書の真蹟を表示します。(2025年現在この機能は停止中)

i. 「他頁」ボタン…「御書基本文」フォーム画面のみにあります。通常は各遺文集の頁行の内、「縮冊遺文」「刊本録内」「刊本録外」「平成新

修」の頁行が表示されていませんが（画面上の制約から）、このクリックで一時的に表示されます。

j. 「括弧」ボタン…検索・絞り込み結果のキーワードに、【 】を付けたり、それを削除したりします。

k. 絞込数表示…御書システムの全データ（32378 行）から、入力したキーワードが含まれるデータ数を表示します。（例：「眼目」が同一データ内に含まれるデータ数は 51 ある）

l. 現代語訳中のキーワードを検索または絞り込みしたい場合は、こちらをチェック。

m. 「リセット」ボタン…入力文字列と、トグルボタンのチェックをすべて解放します。



a. 「ジャンプ [最後行]」ボタン…最後のデータ行へ移動します。

b. 「次へ」ボタン…次のページに進みます。

c. 「戻る」ボタン…一つ前のページに戻ります。

d. 「ジャンプ [先頭行]」ボタン…先頭のデータ行へ移動します。

e. 「閉帳」ボタン…1 つ前のフォーム画面（一つ前の作業）に戻ります。

### 使い方が分からないときには

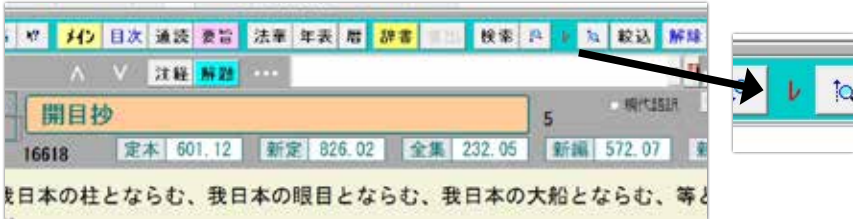


各フォーム画面で使い方が分からないときには、「ヘルプ」ボタンを押してください。その画面の内容と詳しい使い方を説明しています。

## 葉機能

本に葉を挟むように、フォーム画面のページに印をつけ、それを手掛かりに後からそのページを探す機能です。慣れると大変に便利です。

葉をつけたい御文を見つけたら、何もキー入力やドラッグ操作をしていない状態で「絞込」をクリックします。葉が付きました。



**何も入力していない状態で「絞込」をクリックすると葉が付きます。**

葉をつけた文章の中で、「検索」と「絞込」するには、「次検索」ボタンと「前検索」ボタンの間をクリックして、「検索」または「絞込」を実行すれば、結果が表示されます。

また、つけた葉を全部消すには、「次検索」ボタンと「前検索」ボタンの間をクリックして、「解除」をクリックします。

それでも「解除」されない場合は、メインメニューから「メンテナンス」フォーム画面へ行き、「正常化」をクリックしてください。



それでも改善しない場合は、「御書統合システム」を再インストールしてください。

## C.検索と置換をつかいこなす

### 「検索・絞り込み」を使いこなす2つの方法

① 入力枠に文字列（キーワード）をキー入力して、「検索」「絞込」ボタンをクリックする方法

p7「まずは使ってみよう」で説明した方法です。

② 本文の文字列をドラッグして、「検索」「絞込」ボタンをクリックする方法

各フォームの文字列を直接ドラッグして「検索」または「絞込」ボタンをクリックすることで検索・絞り込みができます。

### 下記の記号を付ければ特殊な検索もできます

「←」…先頭一致、「←所謂」とすれば行頭が「所謂」で始まる本文

「→」…末尾一致、「→如何。」とすれば「如何。」が行末尾にある本文

「-」…含まない、「仏教-」とすれば「仏教」を含まない本文

「スペース」…空白スペースで区切ると and 条件となる。

例：「蒙古 百済 日本」と入力すれば、この3語が同時に含まれるものを検索・絞り込みする。（空白は半角でも全角でも同じ）

「|」…「|」で区切ると or 条件となる。

例：「蒙古|百済|日本」と入力すれば、この3語の内どれか一つでも含まれているものを検索・絞り込みする。（「|」は「Shift+\」）

※ and 条件と or 条件の複合も可能です。

例：「蒙古|百済 日本」など。

※ and 条件と or 条件の複合では and 条件が優先されるので、or 条件を優先の場合は { } で括ります。

例：「{蒙古|百済} 日本」、「{蒙古|百済}-日本」などと入力します。「-日本」は「日本」を含まないものを指定します。「-」の外に「←」や「→」を付けた複合も可能です。

## **検索のページ送り**

「検索」ボタンの検索では、すべて先頭行（最初）から最終行に向かって行います。現在行を基準にして、そこから前後に向かって検索する場合は「虫眼鏡 + ↑」・「虫眼鏡 + ↓」 ボタンをクリックします。

## **「検索」「絞込」のその他の機能**

キー入力・ドラッグ入力のない状態で、

「絞込」ボタンをクリックすると、栞機能の働きとなります。p15 参照。

「検索」ボタンをクリックすると、

- ・ 御書関係のフォーム画面では、各遺文集の位置検索のための入力バー画面となります。
- ・ 「辞書」フォーム画面では、直前に検索した見出項目の再検索となります。

### **御書統合システムに慣れるには**

当システムの使い方が分からない方は、まずはあちらこちらのボタンを適当にクリックして大体の要領を得てください。これがシステム理解の一番の早道です。

停電や誤って電源を切るようなことがなければ、どんな使い方してもシステムが壊れることはありません。安心して行ってください。

## 2.各フォームの構成と使い方

### A. 「御書目次」フォーム

御書目次画面では、御書名の検索に便利な画面を心掛けています。



①と③…並び替えボタン



③で囲んだ項目順に並び替えることができます。なお③の項目欄をクリックしても並び替えができます。



a. 「日蓮遺文解題集成」の分類 [I類] [II類] [III類] に分けて活用できます。設定の方法は、「御書目次」フォーム画面で、「I類 II類 III類」とあるところの「I類」の部分をやっくりと2度クリックします。1度目で398編が絞り込まれ、2度目でI類専用となります。

解除するには、赤字で「専用ヲ解除スル」とある箇所をクリックすれば、基本システムに戻ります。

b. 並び替えボタンのクリックではカーソル位置に変更はありませんが(御書が変わらない)、「目次項目」名のクリックではカーソルは並べ替え後の最初に移動します。元の御書に戻りたいときは「御書目次」と書かれたタイトル名辺りをクリックしてください。

c. 「対告者絞込」 トグルボタン…入力キーワードで対告者を対象にして検索・絞り込みを行うとき、チェックを入れます。(チェックを入れないときは、御書名が対象となります)

### **御書目次・項目「C」の説明**

[C] は、書籍『日蓮遺文解題集成』(13 ページ) の真蹟欄に基づき、遺文を 10 クラスに分類したものです。

この分類 [C] は、「御書本文」「御書通読」「解題集成」の各表にも付されており、各フォーム画面のタイトル「書名」付近にも表示されています。

※全体で 573 書に分類されています。

C1 「完存」	真蹟が首尾一貫して完存している遺文です。	106 書 (11.3%)
C2 「断存」	真蹟の一部が現存している遺文です。	123 書 (22.1%)
C3 「共存」	真蹟と門下筆による部分が混在している遺文です。	6 書 (1.1%)
C4 「著名・花押」 「花押」	本文は門下筆ですが、著名や花押が真蹟である遺文です。	3 書 (0.1%)
C5 「曾存」	かつて真蹟が存在したことが確認されている遺文です。	44 書 (11.2%)
C6 「模本」	真蹟の模写本が現存している遺文です。	6 書 (0.2%)
C7	上記の C1 ～ C6 に該当しないものの、真撰遺文と判断されたものです。	110 書 (15.8%)
※以上の 7 区分を「Ⅰ類遺文」とし、合計 398 書 (62.2%) となります。		
C8 「Ⅱ類遺文」	真偽未決遺文	30 書 (4.1%)
C9 「Ⅲ類遺文」	偽撰遺文	145 書 (33.7%)

右端のパーセンテージ (%) は、各 C 分類の遺文が遺文全体に占める割合を、[原型活用] における文字数に基づいて算出したものです。  
なお、現時点では『定本遺文』に収録されている断簡の文字数は含まれていません。

## B.御書基本文フォーム

御書本文フォーム画面は、御書の検索・絞り込みを行なうのに最も適した画面です。

※基本的な使い方は、本誌 7 ページを参照してください。

### ◎5種類(5項目)の御書本文

「c. 「フォーム切替」ボタン」をクリックすることで5種類の表示を切り替えることができます。

#### ① システム版御書

本システムが独自に作成した読み下し御書テキストです。

最新の研究成果を取り入れ、デジタル御書としての検索・絞り込み・並べ替えなどの機能に対応できるよう、表記の統一に配慮しています。

#### ② 真蹟直読

主に『日蓮聖人真蹟集成』をもとに真蹟を解読し、可能な限り原形を保ちながら活字化したものです。

異体字・変体仮名などは、外字を用意して表記しています。

また、真蹟の改行位置に合わせて、改行記号を挿入しています。

なお、真蹟の現存が確認されていても、当制作グループにおいて写真等による実見ができていないものについては解読を行っておりません。

その場合は、他読によるテキストを「③真蹟活用」にて使用しています。

※「真蹟画像」に表示される解説文は、この「真蹟直読」を改行して縦書きにしたものです。

### ③真蹟活用

「②真蹟直読」で使用されている異体字や変体仮名を、検索や絞り込み作業がしやすいように常用字体に改め、さらに改行記号などを除去したものです。

「真蹟直読」との表示を交互に切り替えることができます。

### ④門下写本

日興などの上代諸師による写本、あるいは日乾真蹟対照写本や本満寺本を、写本に忠実に再現し活字化したものです。

新旧字体を問わず、写本通りの字体を使用しており、異体字・変体仮名は外字で表記しています。

「システム版御書」との表示を交互に切り替えることができます。

### ⑤原型活用

真蹟が現存するものについては、その原型を保持し、現存しないものについては既刊の活字版御書を参考にしています。

漢文の送り仮名や和文の濁点を除去して、原型の再現を図った上で、検索や絞り込みが行いやすいよう常用字体に整えています。

テキストデータとしての活用にも適しています。

★②と③、④と⑤の表示は、それぞれ表示枠内の任意の場所をクリックすることで切り替えることができます。

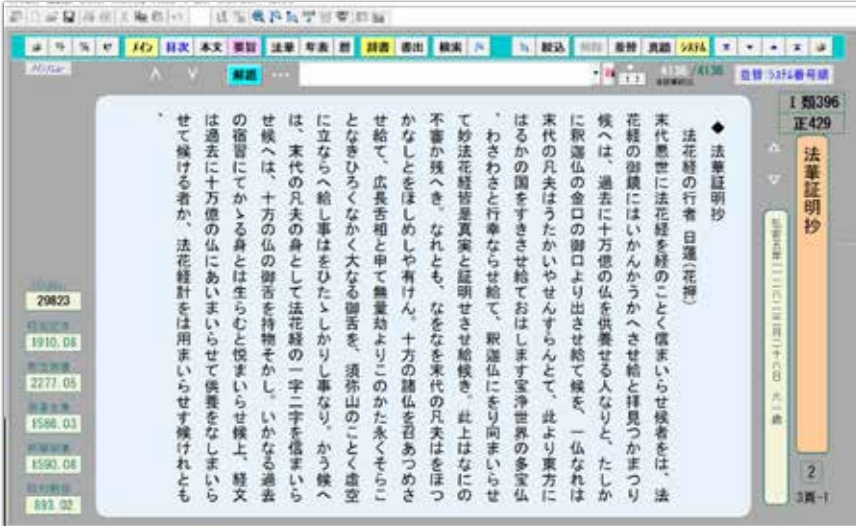
## 写本備考に使われている略符

御書統合システムでは下記の略符が使用されています。参照してください。

真	真蹟	興	日興写本	目	日目写本
道	日道写本	舜	日舜写本	澄	日澄写本
順	日順写本	信	信伝写本	源	日源写本
代	日代写本	睿	日睿写本	大	日大写本
進	日進写本	存	日存写本	影	京都府妙覚寺蔵某筆真蹟影写本
啓	録内啓蒙	内	録内御書（宝暦修補版）	外	録外御書（宝暦修補版）
縮	靈良閣版日蓮聖人御遺文	全	日蓮大聖人御書全集	定	昭和定本日蓮聖人遺文
新	昭和新定日蓮大聖人御書	対	日蓮大聖人御真蹟対照録	修	平成新修日蓮聖人遺文集
編	平成新編日蓮大聖人御書	正	大正新脩大藏經	伝	伝教大師全集

## C.御書通読用フォーム

御書通読フォーム画面では、御書を読むのに便利のように配慮して表示しています。横書きのフォーム画面も用意しています。横書きフォームも、操作はほぼ同じです。



※上記の画面は原型画面です



「御書通読」フォーム画面には、以下の①、②、③の3画面があります。上部ボタン列の、右から6番目ボタン（「語訳」「システム」）と、7番目ボタン（「原型」「真蹟」）のクリックで交互にフォーム画面の表示が切り替わります。

- ①背景が薄黄色は、「システム版御書」が表示中。このとき6番目ボタンは「語訳」となっています。
- ②背景が薄ピンクは、「現代語訳」が表示中。このとき6番目ボタンは「システム」となっています。
- ③背景が薄青色は、「原型活用」が表示中。このとき宗祖の御書真蹟画像があれば、7番目ボタンは「真蹟」となります。なければ無印のまま表示されます。（※現在、真蹟画像は配布していません）

## 便利な使い方

### ◇「御書本文」にリンク

現在表示が「システム版御書」でも「原型活用」でも、任意の箇所をドラッグして「本文」ボタンをクリックすれば、ドラッグした御書の「御書基本本文フォーム画面」にリンクします。

ドラッグしないリンクでは、頁文頭の「システム版御書」が基準となります。

### ◇「法華経」にリンク

同様に法華経引用箇所をドラッグして「法華」をクリックすれば、該当の経文のある「法華経」フォーム画面にリンクします。

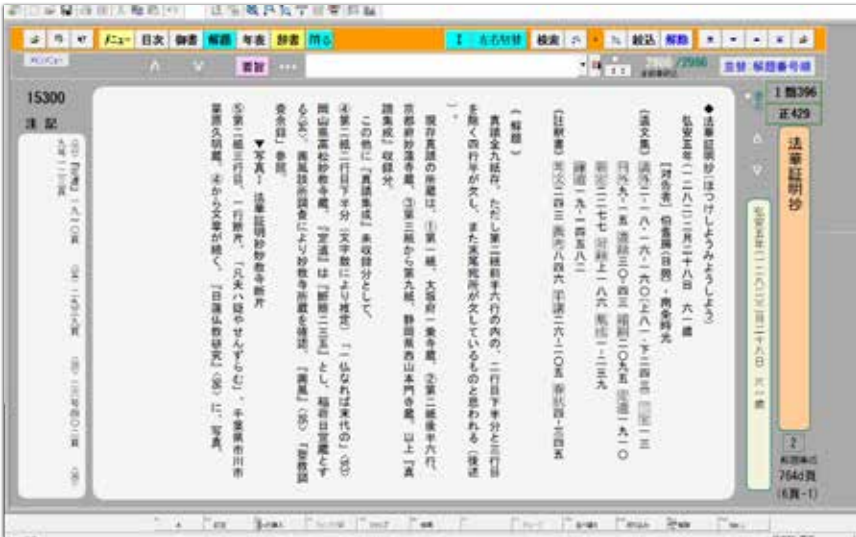
さらに「法華」をクリックすれば「法華通読」フォーム画面になり、さらに交互に表示されます。

## D. 解題集成フォーム画面

### ◆『日蓮遺文解題集成』の収録について

当システムには、2023年に発刊された山上弘道著『日蓮遺文解題集成』の全内容を収録し、「解題集成フォーム」にて閲覧できます。

ただし、文字はすべて常用字体に統一しています。



書籍に掲載されている「目次」と付録の「凡例」は、システム内には収録していません。「目次」はシステムの「御書目次」画面で確認でき、「凡例」に記載されている記号や用語については「辞書」機能で調べることができます。

◎『日蓮遺文解題集成』では、全573編の遺文が次の三類に分類されています。

第Ⅰ類：真撰遺文	398 編
第Ⅱ類：真偽未決遺文	30 編
第Ⅲ類：偽撰遺文	145 編

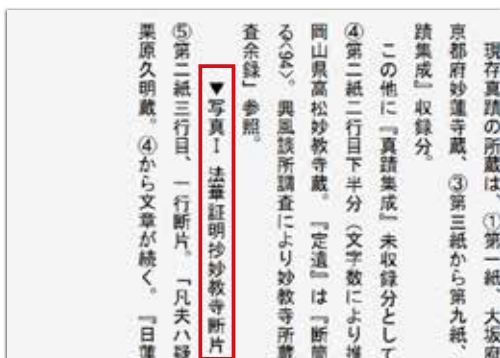
◎「御書目次」画面にある白字の項目名「解題番号」をクリックすると、

「序」や「付録」などの目次が表示されます。その状態で「解題」ボタンをクリックすると、「序」や「付録」などを閲覧できます。

◎解題本文中に記載された「解題番号」や「定本番号」は、ドラッグ&クリックにより、該当する御書へ直接リンクされます。

## 図版の参照

◎「解題集成フォーム」では一部図版を閲覧できます。



例えば、「法華証明抄」の項では、「▼写真 I 法華証明抄妙教寺断片」とあります。



この場合、上記の「I」をクリックすると、図版を参照することができます。

図版で項目が読みにくい場合は「左右切替」で図版の表示位置を切り替えることができます。

図版を参照し終えたら「閉る」をクリックすると、図版が表示されなくなります。

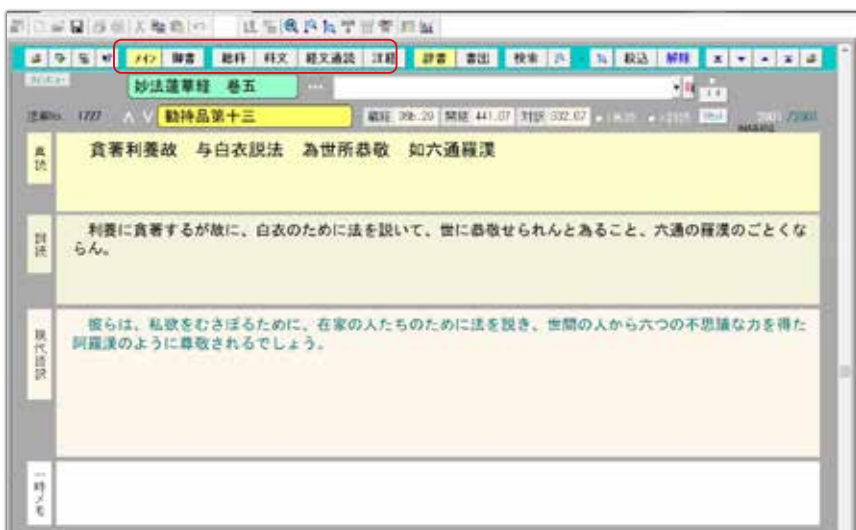
## E.法華経本文フォーム画面

「妙法蓮華経」8巻、「無量義経」1巻、「仏説観普賢菩薩行法経」1巻（法華三部経）の、真読（現漢文）と訓読（訓み下し分）、それに現代語訳を対照にしてデータ化したものです。三経の現漢文データ化に際しては、島地大等著「漢訳対照妙法蓮華経」と「大正新修大蔵経」により、そのふりがなに関しては大石寺版「真訓両読 妙法蓮華経開結」を参照しています。また読み下し文に関しては、大石寺版「法華経開結」と岩波文庫版「法華経」を参照し、すべての字体を常用字体にしています。

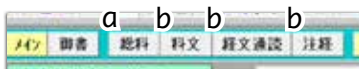
### 2つのフォーム画面

No.	真読	訓読	現代語訳
No. 1727 部目 36.25 部目 44.01 部目 332.22	愚世中比丘 邪智心妬曲 未得譲為得 我復心充滿	愚世の中の比丘は、邪智にして心妬曲に、いまだ得ざるをこれ得たりと譲ひ、我復の心が充滿せん。	
No. 1728 部目 36.27 部目 44.05 部目 332.61	或有阿練若 納衣在空閑 自遊行真道 経随人間者	あるいは阿練若に、納衣にして空閑に在って、自ら真の道を行ずと譲ひて、人間を経随する者あらん。	
No. 1727 部目 36.29 部目 44.07 部目 332.67	貪著利養故 与白衣說法 為世所恭敬 如六通羅漢	利養に貪著するが故に、白衣のために法を説いて、世に恭敬せられんとあること、六通の羅漢のごとくならん。	
No. 1728 部目 36.31 部目 44.09 部目 332.10	是人懷惡心 常念世俗事 假名阿練若 好出我等過	この人は悪心を懐き、常に世俗の事を念ひ、名を阿練若に仮って、好んでわれらが過を出ださん。	
No. 1729 部目 36.33 部目 44.11 部目 332.13	自作如是言 此諸比丘等 為貪利養故 説外道論議	しかもかくのごとき言をなさん。『この諸の比丘等は、利養を貪らんが為の故に、外道の論議を説き、	
No. 1730 部目 36.35 部目 44.13 部目 332.16	自作此經典 誑惑世間人 為求名聞故 分別説是經	自らこの經典を作って、世間の人を誑惑し、名聞を求むるが為の故に、分別してこの經を説く』と。	

※起動後の画面です。真読と訓読を左右で比較しながら閲覧できます。左から3番目のフォーム切替（本紙8ページ、「B. 基本の操作」参照）をクリックすると、現代語訳が表示される画面に切り替わります。（次ページ）



※現代語訳が表示される画面です。



a. 「総科」画面切り替えボタン……法華經の科段（総科）画面に切り替えます。

品名	品目	品代	対訳品
法華經	177	106.28	180.01
法華經十通分	572	106.28	180.01
法華經十一通分	577	106.28	180.01
法華經十二通分	577	106.28	180.01
法華經十三通分	956	306.27	250.01
法華經十四通分	409	796.18	279.01
法華經十五通分	1051	206.25	284.01
法華經十六通分	1123	226.18	310.01
法華經十七通分	1360	276.12	286.01
法華經十八通分	1430	226.22	272.01
法華經十九通分	1473	306.28	300.01
法華經二十通分	1547	326.18	398.01
法華經二十一通分	1640	346.23	421.01
法華經二十二通分	1680	366.27	435.01
法華經二十三通分	1742	376.09	445.01
法華經二十四通分	1800	396.18	473.01
法華經二十五通分	1800	396.18	473.01
法華經二十六通分	1801	426.29	495.01
法華經二十七通分	2001	446.05	511.01
法華經二十八通分	2021	446.05	511.01
法華經二十九通分	2125	496.21	535.01
法華經三十通分	2179	476.02	541.01
法華經三十一通分	2239	506.23	565.01
法華經三十二通分	2339	516.39	577.01
法華經三十三通分	2375	526.03	596.01
法華經三十四通分	2388	536.04	598.01
法華經三十五通分	2458	556.13	628.01
法華經三十六通分	2514	566.03	635.01

b. 「科文」ボタン……法華經の科段（別科）画面に切り替えます

品名	品別	品別名	品別数
の通好・電	ト文殊の利益を結す		1672
女の威仏を	ト智慧の讃歎		1673
明かす	ト文殊の自叙		1676
	ト智慧の妙問		1677
	ト文殊の答言		1678
	ト智慧の疑問		1681
電女の利益	ト電女の疑を解く	ト回答の叙	1684
		ト讃嘆	1685
	ト舍利弗の疑問	ト疑を解す	1686
		ト三摩多釈出す	1688
	ト電女、定味多解して疑を解く		1689
	ト明衆の疑問		1684
	ト智慧・舍利弗、黙然として受領す		1687
【勸持品】			1686
	ト二万の眷属、命を奉じて他土に弘経す		1689
	ト五百・八千の諸大聲聞、海誓して他土に弘経す		1708
	ト法華経を誦し一記を講ず		1706
	ト其此五記	ト記を講ず	1707
	ト其記を講ず	ト一記を講ず	1711
		ト二記を講ず	1712
		ト三記を講ず	1714
		ト四記を講ず	1716
		ト五記を講ず	1717
		ト其記を講ず	1718
		ト其行十仏、默然たり	1719
		ト法華に歎願す	1720
		ト其衆、默然たり	1721

c. 「法華經通読」フォーム画面へ移動します。

d. 「注法華經」フォーム画面へ移動します。

## 御書本文・御書通読とのリンク

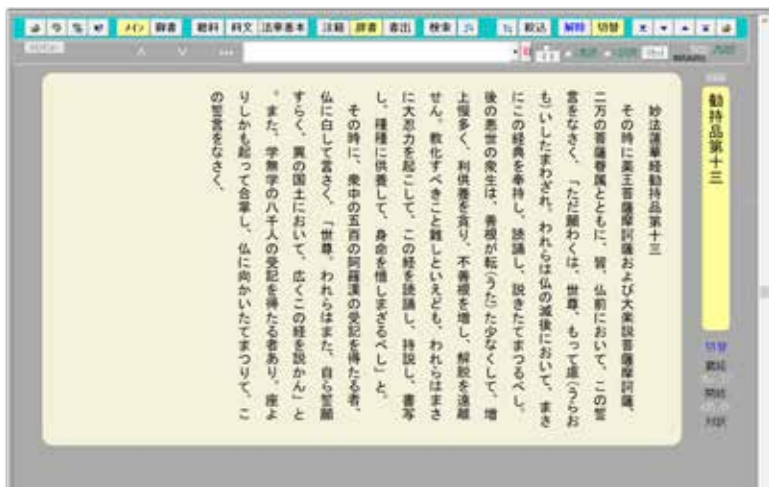
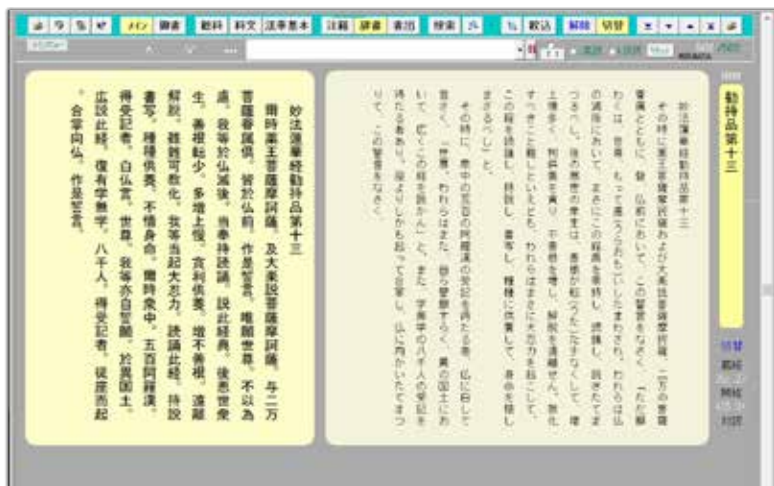
真読・訓読の本文をドラッグしてをクリックすると、御書にその経文が引かれている場合は、その引用されている「システム版御書」の箇所へリンクします。引用されていない場合は、引用されていなくても御書に進むか（この場合の御書の位置は直前に作業をした位置）、現法華經に止まるかを尋ねてきます。

## 書き出し

法華經全部もしくは品単位で書き出しができます。法華經フォーム画面での、書き出しの詳細は、43 ページをご覧ください。

## F. 「法華經通読」フォーム画面

法華經本文のデータを基礎に、スペースを大きく取り、通読しやすいようにした画面です。右から6番目の切替ボタンをクリックすると、「書き下し画面」、「現代語訳画面」に切り替わります。



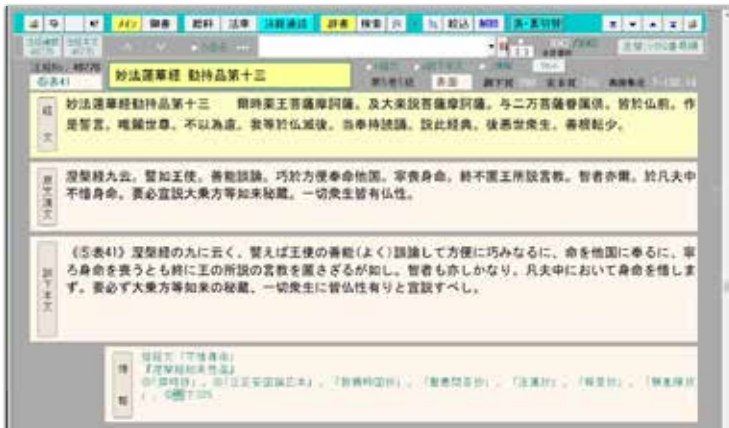
※書き下し画面



※現代語訳画面

### G. 「注法華経」フォーム画面

宗祖注釈の『注法華経』十巻で、宗祖が自ら所持していた『法華経』一部八巻と開結二巻の合計十巻の余白に、諸経論釈の要文を集録注記したものです。「注法華経」フォーム画面では、「注法華経」を法華経と連動させて閲覧できます。



※「注経データ」フォームの「注法華経」の表を表示する画面

右から6番目の「表・裏切替」ボタンをクリックすると、「注法華経」の表



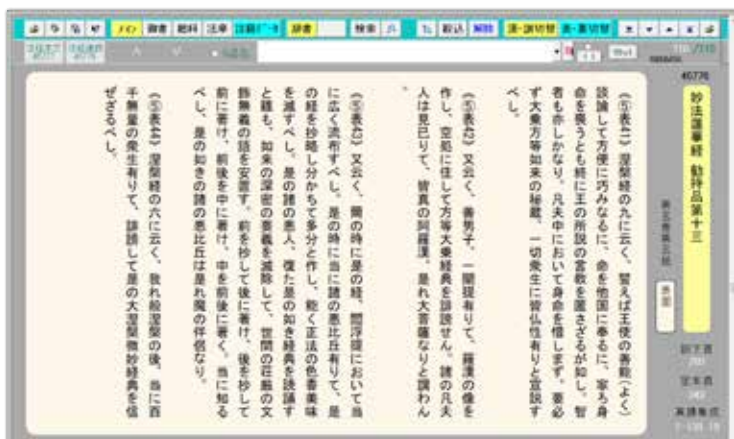
面と裏面を閲覧できます。

※「注経データ」フォームの「注法華経」の裏を閲覧する画面

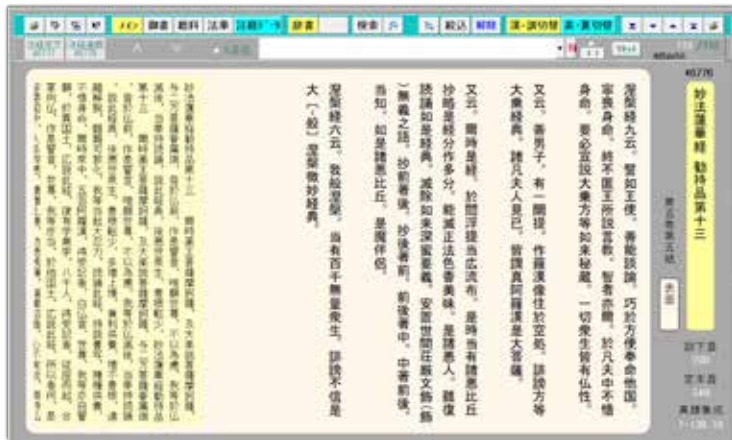
### 注経通読画面

画面中央よりにある「注経通読」ボタンをクリックすると、注経通読画面に移動します。

注経通読画面では、注経データと同じく、注法華経の裏表を閲覧できるとともに、「漢・訓切替」ボタンをクリックすることで漢文、訓下を表示することができます。



※「注経通読」の「訓下本文」を閲覧する画面



※「注経通読」の「漢文原文」を閲覧する画面

## H. 「遺文頁検索」フォーム画面

下記に掲げる遺文集のページや行数を指定して検索ができるフォーム画面です。

**御書全集**

頁

行:

1. 実行

2. 御書本文

3. 遺文選択

E. 説明

Z. 中止

左記の画面でページや行数を指定すると、指定の遺文に移動できます。

他の遺文集にへ移動するには、「3.遺文選択」をクリックしてください。(その他の検索方法はヘルプを参照してください。本誌10ページ)

### 遺文選択・検索対象の10遺文集

このシステムは以下に掲げた10の遺文集が対象です。

①定本遺文

「昭和定本日蓮聖人遺文」 身延久遠寺発行

②新定御書

「昭和定本日蓮大聖人御書」 大石寺富士学林発行

③縮冊遺文

「本化聖教 日蓮聖人御遺文」 靈良閣蔵版日宗社発行

④御書全集

「新編 日蓮大聖人御書全集」 創価学会発行

⑤刊本録内

「法華宗門書堂 寛文九己酉年版」 大石寺内事部複製

⑥刊本録外

「法華宗門書堂 寛文九己酉年版」 大石寺内事部複製

⑦新編御書

「平成新編 日蓮大聖人御書」 大石寺発行

⑧平成新修

「平成新修 日蓮聖人遺文集」 日蓮宗連紹寺不輕庵発行

⑨対照録 上中下巻

「日蓮大聖人御真蹟対照録」 立正安国会発行

〃 大石寺

「大石寺蔵 日蓮大聖人御真筆聚解読文」 大石寺発行

⑩真蹟集成

「日蓮聖人真蹟集成」 法蔵館発行

## 1. 「本尊資料」フォーム画面

本尊資料フォーム画面は、曼荼羅本尊に関する資料集です。真蹟・模写・曾存の記録のあるものはすべて収録してあります。

※検索・絞り込みは融通の効く機能となっています。よって他のフォーム画面のように結果のキーワードに【】の印付けをすることはできません。

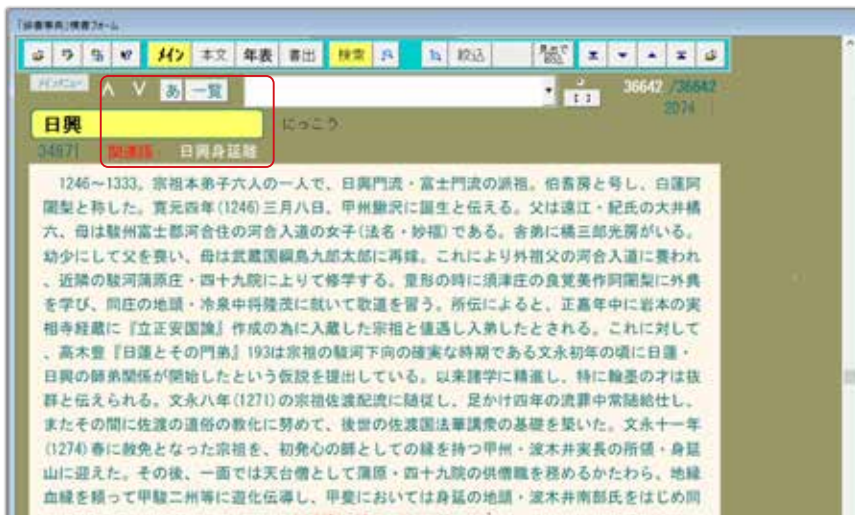
### 年表・西暦換算フォーム画面とのリンク

なにも入力のない状態で、

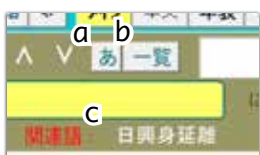
- ①「年表」ボタンをクリックすれば、系年の該当行にリンクします。
- ② 同様に、「西暦」ボタンをクリックすれば、[脇書]の年月日文字列(内容は[系年]と同じ)で換算をした西暦換算画面にリンクします。

## J. 「辞書・辞典」フォーム画面

辞書フォーム画面は、御辞書フォーム画面は、御書および御書システムに関する用語の解説を示します。辞書フォーム画面には縦書き・横書き両様が用意されています。



### 3つの検索方法



ら検索できます。

c. 「関連語」からは、検索した項目に関連する語句を調べることができます。

見出語（[見出項目]）を検索するときは、各フォーム共通の検索・絞込方法以外に、

- a. 「あ」をクリックすると五十音で、
- b. 「一覧」をクリックすると見出し語の一覧から



## 御書本文とのリンク

[語義解説] 文に関連御書の [システム No.] が付されているときは、「本文」のクリックで直ちに該当の御書にリンクします。[システム No.] が何カ所も付されている場合は、目的の箇所をドラッグしてから「本文」をクリックしてください。(関連御書の [システム No.] は〔 〕で括られています。例:〔12345〕など)

## K. 「年表」フォーム画面

年表フォーム画面は、御書本文・御書通読・御書資料・本尊資料の各フォームとのリンクを重視しています。

年号	月日	事	項
1252 建長4年	8月	宗祖 叡山を下り三井に造学	富士年表
1252 建長4年	9月30日	幕府 鎌倉および諸国市に沽酒禁制を定む	吾妻鏡
1252 建長4年	11月15日	幕府 坊日蓮 甲斐国二十日村〔秋山氏〕に生る	富士年表
1252 建長4年	12月 4日	忍性(良観) 常陸国の三村寺清涼院に入る	一般年表
1252 建長4年	この年	日蓮 駿河国事須に生る	富士年表
1253 建長5年	2月15日	日興の父妙行卒	日蓮年表
1253 建長5年	2月16日	日向 上総国に生る	富士年表
1253 建長5年	3月28日	宗祖 清涼寺にて宗旨建立の内証を宣示	聖典567
1253 建長5年	4月28日	宗祖 清涼寺において宗旨建立	No. 27407
1253 建長5年	6月10日	鎌倉大地震	吾妻鏡
1253 建長5年	7月12日	朝廷 新制18条を宣下	一般年表
1253 建長5年	8月26日	宗祖 厚庵を鎌倉松原谷に携う	日蓮年表
1253 建長5年	承安以前	道元「正法眼藏」などを著す	一般年表
1253 建長5年	8月28日	道元 寂54歳	一般年表
1253 建長5年	9月16日	幕府 関東新制を出す	吾妻鏡
1253 建長5年	10月 1日	幕府 諸国地頭代の横断について制定	一般年表
1253 建長5年	11月25日	時頼(執権) 鎌倉に建長寺を創建し道隆を攝す	吾妻鏡
1253 建長5年	11月	日昭 宗祖に入参	富士年表

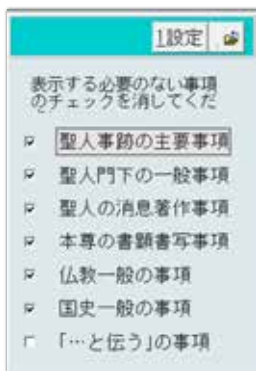
※西暦1175年から1617年までを範囲にして、主に日蓮聖人の事項(事跡・御書執筆・本尊図顕など)、ならびに門下全般の事項を記載しています。また主要な仏教一般や国史一般も掲げていますが、それらは色分けして見やすくしています。また、「暦換算」をクリックすると当該年の西暦に換算して表示できます。(次ページ画像)さらに、「表示事項」をクリックして、不必要な事項を非表示にできます。(次ページ画像)

※上段掲示の干支・改元・聖寿(祖滅)・天皇・院政・摂関・將軍・執権

などは、現在、カーソルがある行のものが表示されています。南北朝時代に限り、表左の年号欄に南朝の年号を記し、表上の枠に北朝の年号を北朝天皇とともに薄緑色で記しています。



「暦換算」をクリックして表示される画面



「表示事項」をクリックして表示される画面

## L. 「西暦換算」フォーム画面

西暦換算フォーム画面は、旧暦(和暦)を西暦に換算するフォームです。

### 2種類のフォーム画面

西暦換算フォーム画面は、2種類用意されています。お好みのフォーム画面をお使いください。フォーム画面の切り替えは、左から2番目のボタンをクリックします。

このボタンをクリックすると画面が切り替わります

西暦換算

旧暦年月日を入力

建長05年04月28日

実日

グレゴリオ暦 1253年6月2日

ユリウス暦 1253年5月26日

西暦換算2

旧暦 元号 年 月 日

建長 05 04 28

実日

グレゴリオ暦 1253年6月2日

ユリウス暦 1253年5月26日

旧暦の年月日を入力後、右上の「換算」ボタンをクリックすると、西暦が表示されます。

## 旧暦年月日の入力上の留意事項

旧暦年月日の入力は、年→月→日の順序を守り、且つ常識的な入力であればどのような記述でも構いません。漢数字算数字、大文字小文字、全角半角、区切り記号、和風月名、干支の使用など自由です。但し年数と干支が合わない場合は年数を優先して計算し正しい干支を表示します。

- ①旧暦の入力は通常元号を用いて、例えば「弘安5年10月13日」などですが、当システムでは元号のほかに「弘安5年」を表す西暦年「1282」を用いて「1282年10月13日」としても構いません。
- ②1200年代を指定する場合は下2桁以下の数字でも構いません。例えば、「1-2-3」は「1201年2月3日」、「821013」は「1282年10月13日」と判断します。ただし4桁数字と6桁数字の先頭2桁が20以下の場合は摘要されません。例えば「2010」は「1220年10月」ですが、「1910」は「1910年」と判断します。
- ③3桁の数字で月日部分を入力する場合は、月と日の境目が分かるように入力してください。例えば「123」を「12月3日」と判断させるためには、「12月3日」ときちっと入力するか、「12-3」とか、「12/3」とか、「12 3」とかのように入力してください。指定がないと「1月23日」と判断します。
- ④年・月・日の文字や区切り記号を一部省いたり簡略化された入力はシステムが適当に判断します。例えば、「1112-13日」は「1211年12月13日」、「文永――」は「文永1年11月」と判断するなどです。
- ⑤干支の直後の数字はとくに年の指定がないかぎり月数と判断します。例えば「文永辛未605」は「文永8年6月5日」と。「文永辛未6年5」や「文永辛未6-5-4」は年の指定がありますので「文永6年5月」等と判断します（この場合文永6年の干支は「己巳」ですので、入力の干支が正しくない旨のメッセージが表示されます）。
- ⑥閏月のときは、「閏〇月」と入力するか、あるいは月数の前か後に、「閏」、「後」、「う」、「u」、「=」の文字を付けるか、あるいは閏月ボタンにチェック入れるかしてください。全角でも半角でも構いません。

### 《入力の具体例》

「弘安1年閏10月29日」は、

「弘安元戊寅年後十月二十九日」

「弘安1 - 10 = 29」

「弘安戊寅閏神無月晦日」、

「千七百七拾八年う十月二十九日」

「七八閏一〇二九」

「1278u1029」

「7810U29」

などと入力しても同じことです。

※この留意事項は、他のフォーム画面で検索・絞り込みをするときの旧暦年月日入力にも共通しています。

### ユリウス暦とグレゴリオ暦の違い

ユリウス暦とは1582年10月4日まで使用されていた西暦です。この時点で実際の天の運行と10日の狂いを生じていたので、それまで4年に1度設けていた閏年を400年に3回(100で割り切れるが400では割り切れない年)は閏年を省いて調整したのが現在の西暦であるグレゴリオ暦です。

## M. 「用語調査」フォーム画面

用語調査フォーム画面は、御書中で使用されている用語の用法を調べるのに便利です。

- 「データ更新」ボタン…「御書本文」のデータと整合させます。
- 「実行」ボタン…用語調査を実行します。
- 御書本文選択トグルボタン……4 種から御書本文を選択。
- 用語入力欄……調査したい用語を入力します。
- 前後文字数入力欄……調査用語の前後に入力数分、字数を追加します。
- 調査結果表示設定欄……調査結果表の表示方法を設定します。

※「真蹟直読」と「真蹟活用」の使い分け：

「真蹟直読」を対象にするの場合は、調査の用語の指定にも、正字・異体字・変体仮名を正しく使用しないと調査できません。その不便を解決したのが「真蹟活用」で、「真蹟直読」の正字・異体字・変体仮名は

すべて常用字体に変換してありますので、常用字体で調査の用語の指定ができます。

## 調査結果に関して

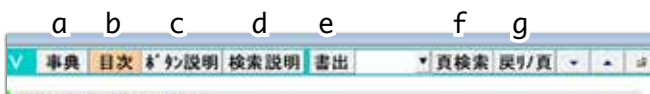
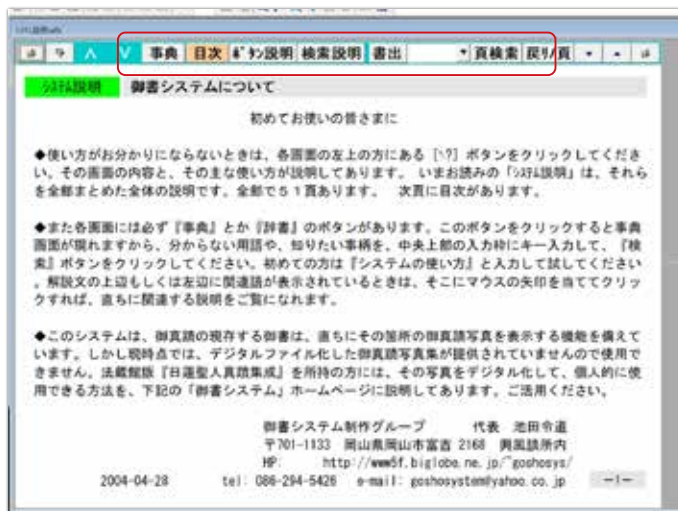
調査結果は桐の表形式で表示されます。桐の機能を使って並べ替えなども可能です。詳しくは、ヘルプボタンを使って参照してください。

ID	名称	単位	調査対象	作業1	作業2	作業3	実行1
10000	桐の葉	葉	【言葉】 一般の葉の二の五、六の九と二の六の四、一の七の文、桐の葉門の葉の葉				10000
10001	桐の皮	皮	【言葉】 桐、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10001
10002	桐の根	根	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10002
10003	桐の幹	幹	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10003
10004	桐の枝	枝	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10004
10005	桐の花	花	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10005
10006	桐の果	果	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10006
10007	桐の樹	樹	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10007
10008	桐の葉	葉	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10008
10009	桐の皮	皮	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10009
10010	桐の根	根	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10010
10011	桐の幹	幹	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10011
10012	桐の枝	枝	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10012
10013	桐の花	花	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10013
10014	桐の果	果	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10014
10015	桐の樹	樹	【言葉】 桐は、五葉、七の九、九の五の葉の葉、葉の葉の桐の桐の桐				10015

※左記の用語調査を実行して表示された表です。

## N. 「システム説明」フォーム画面

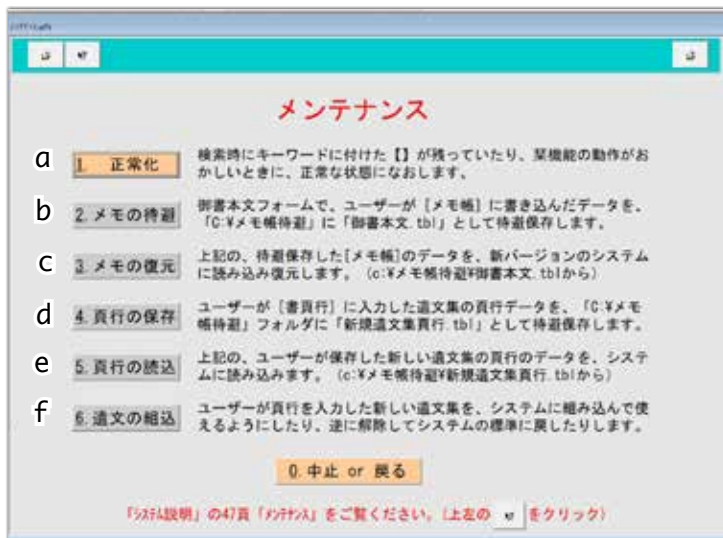
システム説明フォーム画面では、御書統合システムの使い方を詳しく説明しています。本マニュアルはファーストガイドです。詳しい使い方を知りたい場合は、是非「システム説明」フォームを活用してください。



- a. 「辞書」ボタン…「辞書・辞典」フォーム画面へ移動します。「辞書・辞典」フォーム内でシステムの使い方を調べることができます。
- b. 「目次」ボタン…各画面説明の頁数を表示します。
- c. 「ボタン説明」ボタン…各画面のボタンの説明に移動します。
- d. 「検索説明」ボタン…検索・絞り込み方法、使用する記号等の説明に移動します。
- e. 「書出」ボタン…書出を実行できます。
- f. 「頁検索」ボタン…左側の「頁数入力枠」に頁数を入力して押すと、当該頁に移動します。
- g. 「戻りノ頁」…直前に開いていた頁に戻れます。

## 0. 「メンテナンス」フォーム画面

御書統合システムの不具合を修正することができます。



a. 「正常化」ボタン…システム上の不具合や機能を正常な状態に戻します。

※全ての不具合を正常化できるわけではありません。メンテナンスを行っても不具合が修正できない場合は、お手数ですが再度御書統合システムをインストールし直してください。

b. 「メモの待避」ボタン…メモ帳（現代語訳フォーム）の書き込みを待避させます。

c. 「メモの復元」ボタン…待避させていた書き込みを、新しいシステムに復元します。

d. 「頁行の保存」ボタン…ユーザーが入力中の、新規遺文集の頁行データをバックアップします。

e. 「頁行の読込」ボタン…上記バックアップデータを、システムに読み込みます。

f. 「遺文の組込」ボタン…新規遺文集をシステムに組み込んだり、解除したりします。

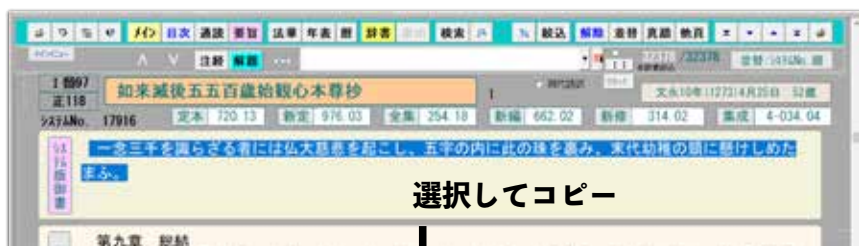


### 3.書出

御書システムは、各種データをテキストとして書き出すことができます。書き出したテキストファイルを、ワープロソフトなどに読み込み、レイアウトして印刷するなど、用途にあわせて種々ご活用ください。一度書き出しに指定したテキストファイル名は記憶されます。最初の指定で、「一太郎」や「Word」などでいつも使うフォルダ内のファイル名に指定しておく、次回以降が便利です。

#### 御書本文の書出

※御書の一節を使用したい場合は、一節を選択してコピー & ペーストを行うのが一番簡単です。



#### Word などにペースト

一念三千を識らざる者には仏大慈悲を起こし、五字の内に此の珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けしめたまふ。 |

#### 一つの御書全体を書き出すには「御書本文」フォームの場合

まずは、書き出す御書全体を選択します。

ここでは『法華証明抄』を書き出してみます。

まずは『法華証明抄』を検索して表示してください。



次に、検索窓に「0」を入力し、絞り込んでください。



これで、『法華証明抄』の全文が絞り込めました。



次に、「書出」ボタンをクリックします。



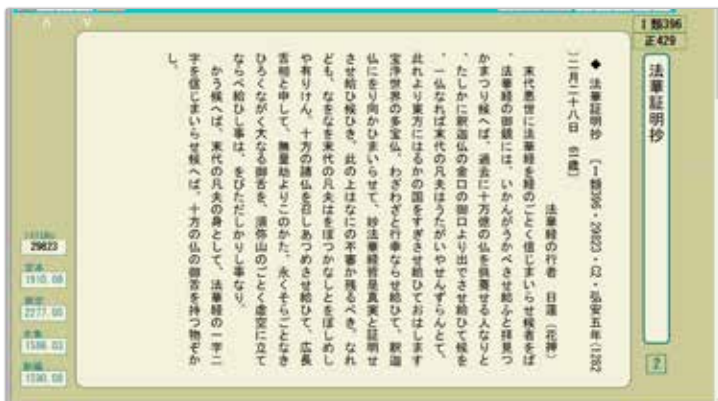
そうすると下記のような画面が表示されます。



ここで書き出す御書の書式を設定できます。右上の「書式」のボタンをクリックしてください。



こちらで書式を設定した後、左右端の戻るボタンをクリックして、  
 上書き…テキストファイルの上書きを行います  
 追加書き…テキストファイルの文末に追加します  
 テスト…今書き出した内容をすぐに確認できます。確認した上で、再度  
 「書出」ボタンをクリックすると、書出が実行されます。



※テストした際に表示される画面

なお、デフォルトの保存先は、「C:\k3\data\御書統合システム\御書システム」内の「goshu.txt」です。



←こちらのボタンをクリックすると、任意の保存場所を指定できます。最初に「goshu.txt」ファイル以外のファイルに書き出す場合は、先に任意のフォルダ内にテキストファイルを作成するようにしてください。

### 一つの御書全体を書き出すには 「御書通読」フォームの場合

「御書通読」画面からの御書本文の書き出しです。書き出す御書本文は「システム版御書」か「原型活用」のうち現在表示している御書本文です。また「現代語訳」を表示している場合は、「現代語訳」も書き出すことができます。

(現代語訳の書出に関しては、この後詳しく説明します)

「御書通読」画面において、「書出」をクリックすると書きのようなウィンドウが表示されます。



任意のボタンをクリックすると、下記の画面が表示されます。



ここでは、「御書本文」画面のときのような書式設定はできません。「上書き」か「追加書き」などを選択していただき、「実行」ボタンをクリックすると書出が実行されます。

## どんなデータが書き出せるか？

「書出」は「書出」ボタンが表示される御書や法華経、辞書、要旨、解題、システムの使い方など、ほぼ全てのデータを書き出すことができます。どんどん書き出して、自分なりの資料を作成してください。

## 特殊な書出 現代語訳の書出

御書と現代語訳を並べて書き出したい場合は、「桐」の機能を使って書き出します。少々操作が煩雑ですが、自分の得たいデータを書き出すことができますので、ぜひ挑戦してみてください。

前ページにて「御書通読」フォームからも現代語訳を書き出すことができると述べましたが、「御書本文」フォームから書き出す方が、自由に書き出すことができます。

### 「御書本文」フォームからの現代語訳の書出

43 ページ～で行ったように、『法華証明抄』を検索し、「0」で絞り込むと『法華証明抄』全体の御書を選択できます。

次に、左上の①「ファイル」→②「書き出し」→③「テキスト」の順番で選択してください。



そうすると、下記のような画面が表示されます。




左の「現在表項目名 (I)」から書き出したい項目を選んで、「> (R)」をクリックすると右に移動します。

上記の画面の場合は「現代語訳」のみが書き出されますが、下記のような画面で書き出し設定すると、



「システム版御書」「現代語訳」「引用索引」を並べた形で書き出すことができます。

保存場所は、 ←のボタンをクリックして、任意に選択できます。「書き出し項目 (J)」と保存先が決まったら、下記の「実行 (E)」をクリックしてください。

上記のような「システム版御書」「現代語訳」「引用索引」を書き出し項目に設定した場合は、次ページのような書き出し結果になります。

自分の研鑽環境にあった形式にして活用してください。

## 《「桐」の機能を使った書き出し結果》

『法華証明抄』の冒頭部分から

(「システム版御書」「現代語訳」「引用索引」の書き出し項目を設定)

...

末代悪世に法華経を経のごとく信じまいらせ候者をば、法華経の御鏡には、いかんがうかべさせ給ふと拝見つかまつり候へば、過去に十万億の仏を供養せる人なりと、たしかに釈迦仏の金口の御口より出でさせ給ひて候を、(←「システム版御書」)

末代の悪世において法華経を経文の通りに信じ申し上げる人につきまして、法華経という御鏡にはどのように映されているか拝見申し上げますと、その人は過去世において十万億もの仏を供養したと、明らかに釈尊みずから法師品の中でおっしゃっておられます。(←「現代語訳」)

法師品【**已曾供養十万億仏**】384.09 (←「引用索引」)

...